

県立博物館見学シート

1 和歌山県立博物館について

①県立博物館の仕事（どんな仕事をしているの？）

和歌山県ゆかりの文化財を、

(1)集める（買う・もらう・あずかる）

(2)守る（虫やカビがつかないように、温度や湿度^{しつど}を調整、光に注意）

(3)調べる（いつごろ・だれが・どこで・材料・大きさ・何のために）

(4)展示する（常設展^{じょうせつてん}・特別展^{とくべつてん}・企画展^{きかくてん}）

(5)教え広める（講演会^{こうえんかい}・ミュージアムトーク・職場体験学習^{しょくばたいけんがくしゅう}など）

②館内見学（ふだん入れない場所に、ご案内します）

(1)空調機械室^{くうちょうきかいしつ}

温度・湿度を調節し、それぞれの部屋に空気を送りこむ機械があります。

(2)展示準備室^{てんじじゆんびしつ}

展示のためにつかう道具・台などがおかれています。準備作業もします。

(3)くん蒸室^{じようしつ}

外から持ち込まれた文化財に付いている虫やカビを毒ガスで殺します。

(4)写場^{しゃじょう}（スタジオ）

文化財の写真を撮る場所です。わずかな時間、強い光を当てます(ストロボ)。

(5)収蔵庫^{しゅうぞうこ}

文化財を大切に守るための、特別な倉庫です。

温度は20～22℃、湿度は60%が基本です。

(6)搬入室^{はんにゅうしつ}・荷解室^{にときしつ}

文化財を運び入れる場所です。車の向きを変えるターンテーブルがあります。

ノート（感想や質問を書いてください。）

2 常設展「きのくにの歩み」と特別展「きのくにの城と館」の鑑賞

《特別展について》

和歌山県内には、鎌倉時代から戦国時代にかけて、山城（山の上に作った城）や館（武士の家）が400か所以上あったといわれています。地面を掘ったり、土を盛り上げたりして、城や館をかまえたあとが現在でも残っていたり、その当時使っていた道具などが発掘調査で見つかりたりして、どのような城や館であったのかが、少しずつわかってきました。

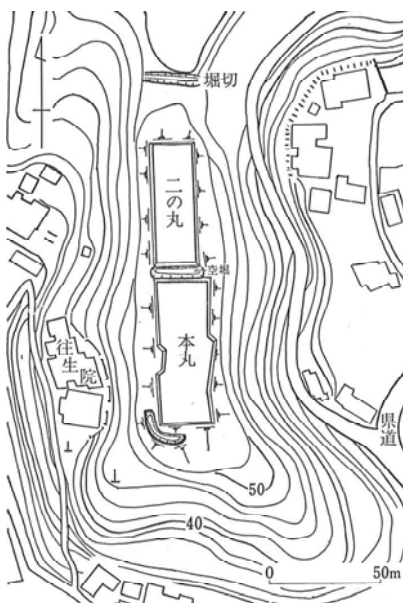
この特別展では、室町時代から戦国時代にかけて、和歌山県中部の海岸沿いの地方で活躍した 畠山氏・湯河氏・玉置氏という武士たちの、大野城（海南市）・広城（広川町）・小松原館と亀山城（御坊市）・手取城（日高川町）・鶴ヶ城（田辺市）・平須賀城（みなべ町）などにかかわる資料を展示しています。

加茂川小学校のとなりにも、お城があった！

みなさんの加茂川小学校の東がわに、往生院というお寺があります。そのうら山（「城山」とよばれているようです）の上にお城があったことを、知っていますか？

このお城は、加茂城という名前で、今からおよそ750年ぐらい前に作られたようです。城主は、このあたりを支配していた加茂氏という武士だったようですが、くわしいことはよくわかりません。

南北に細長くのびた山の上に、2か所以上の平らな場所（「曲輪」といいます）をもうけて、それらの間に溝（「堀切」といいます）をほって、攻められにくくしています。南がわの広い場所を「本丸」、北がわの広い場所を「二の丸」とよんでいたようです。



加茂城の近くには、ほかにも山城がありました。加茂川をはさんで南東にある鉢伏山の上には、入佐山城がありました。また、藤白峠の上にある地藏峰寺のそばには地藏峰寺城があり、そこから山の尾根伝いにおよそ2km東の所に、特別展でも展示している大野城がありました。



3 和歌山城について

①和歌山城はいつ作られたの？

最初に和歌山城が作られたのは、戦国時代の1585年のことで、豊臣秀吉が、その弟の秀長に命令して作らせました。その時の天守閣は、江戸時代の終わりごろ、1846年に雷が落ちて火事になり、焼けてしまいました。その後、1850年に建て直されますが、1945年7月にアメリカ軍の空襲（和歌山大空襲）によって、また焼け落ちてしまいました。今の天守閣は、1958年に鉄筋コンクリートで建てられた3代目の建物です。

②和歌山城にいた殿さまはだれ？

和歌山城を作った豊臣秀長は、現在の奈良県大和郡山市にあった城に住んでいたため、その代わりに家来の桑山重晴が和歌山城主をつとめました。1600年の関ヶ原の戦いのあと、浅野幸長が紀伊藩の藩主となり、その子の長晟とあわせて19年間、浅野氏が和歌山城主でした。1619年に浅野氏が広島へ移った後に和歌山城主となったのが、江戸幕府を開いた徳川家康の10番目の息子・徳川頼宣でした。その後、江戸時代の終わりまで、徳川氏が14代にわたって城主(藩主)をつとめています。幕府の8代将軍になった吉宗も、将軍になる前は、5代目の和歌山城主をつとめていました。なお、14人の殿さまのうち、12人の殿さまのお墓は、海南市下津町の長保寺にあります。

③和歌山城ができる前の和歌山の町は？

和歌山城がある岩山は、およそ1億5千万年前に地面につき出した溶岩が冷えて固まってできたものです。そのまわりには、海から吹き上げられた砂がたまった砂丘がありました。和歌山城のまわりに、「砂山南」「真砂丁」「吹上」という地名があるのは、そのなごりなのです。和歌山城の少し北に広がる町なみは、今から500年前ごろから鷲森別院などの浄土真宗のお寺を中心に、家が建てられてできた「寺内町」という町でした。和歌山城ができると、そのまわりに武士の屋敷や町人の家が広がり、以前からあった寺内町を取りこんで、大きな「城下町」ができました。江戸時代の終わりから明治時代の初めごろには、和歌山の城下町は全国第8位の人口（およそ6万人）を持つ大都市でした。

④和歌山という地名はいつごろからあったの？

現在、県や市の名前に使われている「和歌山」という地名は、今からおおよそ420年前に和歌山城が作られたころから使われ始めたといわれています。なぜこの名前が付けられたのか、よくわかりませんが、南の海沿いに「和歌浦」という奈良時代から有名な風景の美しい場所があり、城を建てた山が「岡山」という名前で、これらをあわせて「和歌山」とよばれるようになったという説もあります。